



忠婦  
美談

薄衣草紙

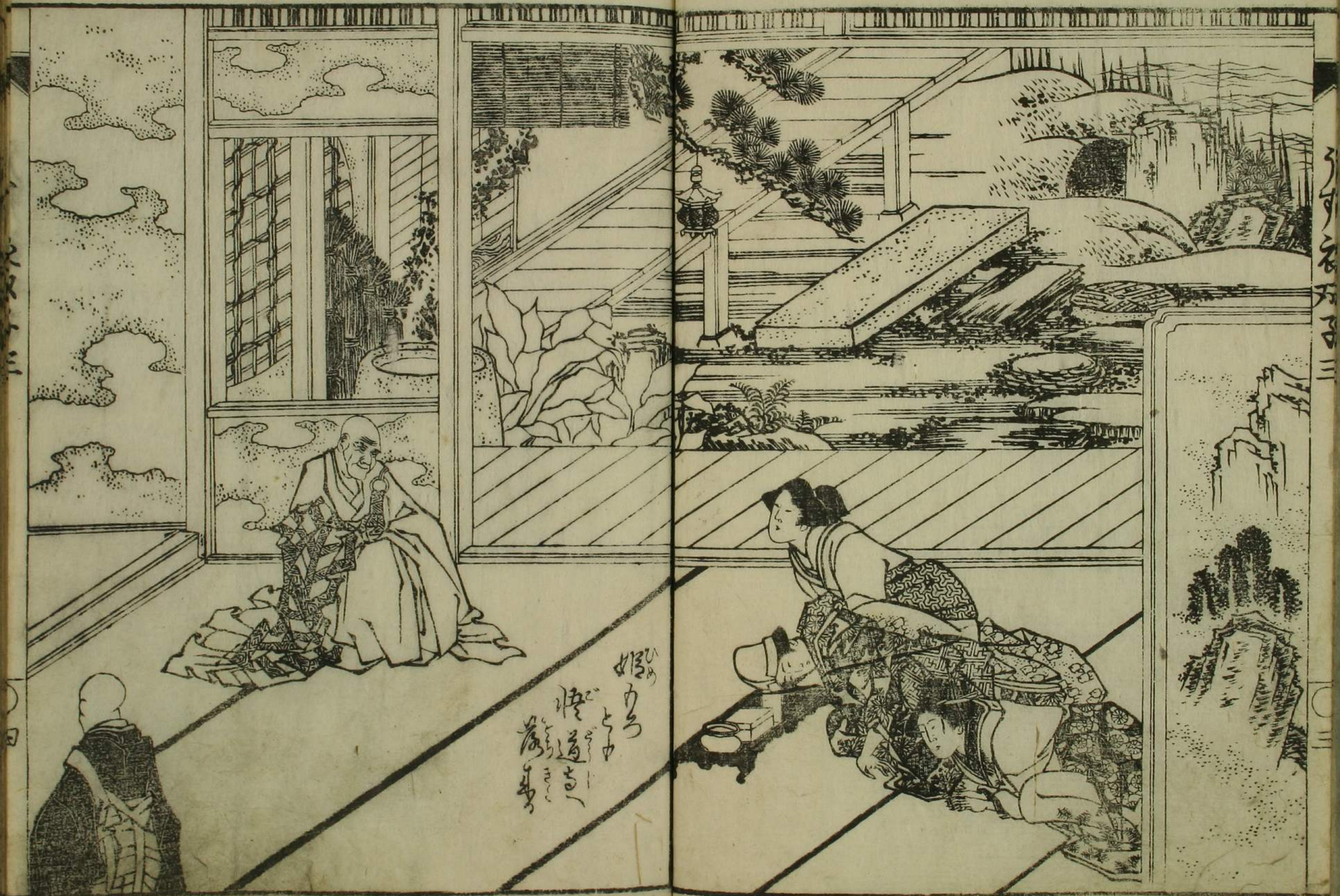
四

45  
 遠山  
 959  
 4









好い  
と  
中  
悟  
道  
寺  
の  
事

三子万石

啼つ。この外の月日を送るのみひらる。茲にやうに挿か身は満今  
 の糸口を曳出しける。一条も。この本曾六が妻の甥は丹三とく。  
 のまごつ。廿五歳をうらる男ありけるが。その性質短慮放蕩  
 あくく。乱酒を飲んぐ。喧嘩争論をう。常はやむとるうじうべ。  
 喜曾六夫婦由是を哀しむ。ひごとく是恩を加ふまごも。曾六  
 用ひざるのまごつ。びつとくあーさまよ罵り。不教のまごつ。ま  
 けまご。詮とるる。この候は捨置けり。されどもこの丹三土器造  
 業は勝まけまご。彼も。此方へ雇まぬまごも。いまご酒の價への  
 ぶかふも至らざれば。やもすれば悪まごのを仕出ける。さるゆへ  
 彼是の不慮を慮らん為。人このまご。喜曾六若ううー死。  
 京洛の街は仕へ。儂家の母子あるが。まご。順主人と失ぬひ  
 を。夫がうらうら續さる。不仕合。家妻へ今のや都のうらも  
 位憂く。これを便りて来ぬひ。を據る。世話一つ。件は世間へ  
 りてる。並ぬまご。人このまご。忍ぶ身の方便のまご。茶藨の方  
 姫君と。挿か母妹と。うら。並ら。人の見聞は仕へ。形のまご。  
 りてる。其餘を控さる。まご。仕る。素より。野はまご。かみ  
 あらねども。諸鳥の中は。まご。雀の形の目まぬ。人の精を憐り  
 のひら。まご。錦ぬまご。まご。まご。細布むひあり。まご。まご。  
 のね憂世と。まご。びのひら。都て。此一御。まご。まご。土器  
 を活業と。まご。挿か。まご。まご。住居。まご。千と。まご。松を挿  
 おぬ。後の用を。まご。まご。まご。男女の隔る。産  
 業の通。まご。まご。まご。忙し。中。まご。主従。三人。手業。由

うすねの三は、財のつとをき、盗賊の害のらんをえりかた。殊  
 う一人の推察ゆつたるまじ。こゝが土器造ることをかゝるる  
 この業をりて病ひの妻ある母と。頭の異なる離支の妹とを親ひ  
 育む形勢よせがや。と仕への間毎よふようけて覚えつ。是をりて  
 人目の世渡りうごてるけり。然るに丹三の喜曾六が家は、毎  
 挿が容さよと迷ひ。つとあもしてひる便由のらんやと。妙  
 居るし。この以挿が土器を造る習ふをえり。一針を案じし  
 或日喜曾六が方小来り。伯母よ封ひてひる。此脊戸ある家  
 住む人々の縁あり。縁ありの深切よ世話一のみと。尋ね  
 ばとよ喜曾六との。若れとき都は奉ふ。主人の家族あるが。ま  
 ちのつとけみく。其のひり世話一つふこそ。そのと母の病  
 妻あるよ。割妹子の頭のちるる。その色さ赤紫よ。その  
 のと奥にぬる離支あると。姉娘の甲斐く。女施ま。入るも。  
 朝夕の費より。そのひり。此程土器造るをとり。原  
 仕るまぬ手づるまじ。まじ。價よるる。まじ。笑止る  
 るる。つと。つと。丹三の聲。夫と近。素  
 のぞく。若さ女の身。二人の厄。と。つと。つと。  
 と。土器造る。と。習ひ。と。誠よ。地。と。  
 何のつと。一通り。教えを。つと。つと。つと。  
 用と。つと。つと。伯父ある人。つと。つと。つと。  
 業。つと。つと。己。つと。つと。つと。つと。  
 と。つと。つと。伯母の。つと。つと。つと。つと。





深草  
花  
位  
位

山崎

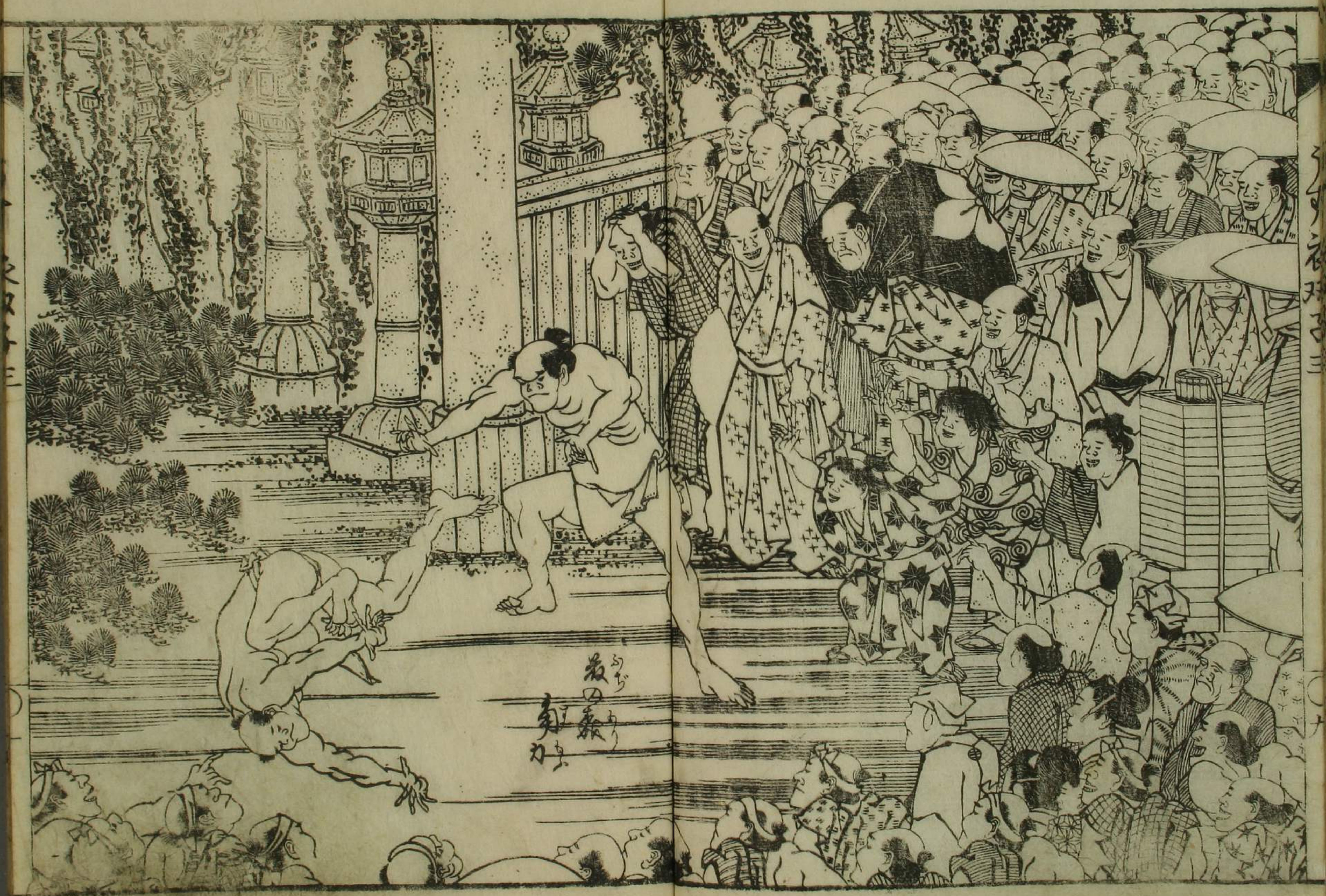
又二

七









最後  
知  
力

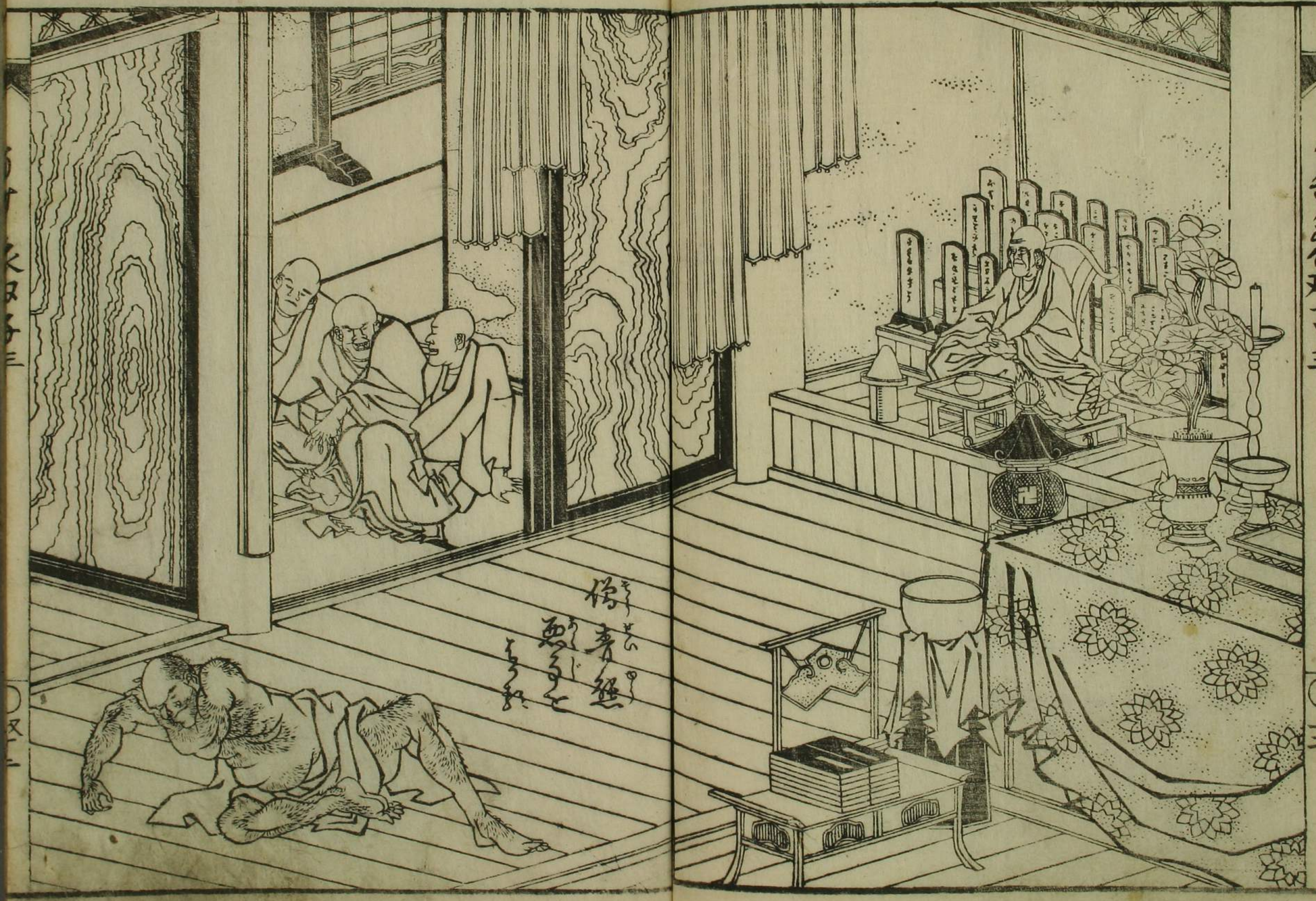
三

賞とあるを。彼大男、彼由あへむ。呵々とうら笑ひ。それやが  
 汝が取とるよ。少一様よひも。あまのまじり。犬低く。おひひと  
 うまへんよ。便よ。万一は怪我は勝ふても突んよ。あめくよ。  
 褒義とく。汝が笑をりつ。口を頭上と踏む。口をま  
 汝は勝とよ。さやと幸を固々見せ。あるんぢが足尿せん。  
 うまへんよ。賤むるあへむ。口が力量よ。あやうらうめんが。あ  
 於九年、笑く。是由ま。面白く。と互ひよ。土俵の真中よ。至り  
 立競ふと。んよ。かえと。小山のまじり。頼九布も。丈の低くと。ま  
 然の屈も。さるよ。あま。何ま。おがえある。白後と。八方より集  
 會する。看物。黒も。ころりて。表のまじり。写を。移め。肩。湯を。呑んで  
 ひく。まじり。影く。兩人と。我とのみ。を相圖み。寄せ。離れ。用て。

あま。と三四。まじり。やぐ。互ひよ。諸手を。変え。袂と。組合り。  
 秘術と。まじり。半時。あま。まじり。至ま。まじり。まじり。務員も。まじり。  
 ざう。頼九布。の酒量。まじり。まじり。力強く。そのまじり。  
 奇妙の手。取り。あま。まじり。腕を。振解く。まじり。まじり。  
 彼男と。まじり。まじり。腰櫓と。まじり。まじり。根袖も。おまじり。  
 大地。まじり。と。投げ。除り。憎く。まじり。まじり。おまじり。  
 先刻の。廣言。おまじり。まじり。まじり。力量を。足よ。入まじり。踏  
 あま。まじり。鼻の間。まじり。まじり。まじり。踏付け。まじり。まじり。  
 りつて。まじり。まじり。まじり。まじり。七穴。まじり。鮮血。まじり。まじり。  
 そのまじり。息。まじり。まじり。頼九布。も。丈。まじり。まじり。酒  
 由。醒。まじり。まじり。まじり。まじり。看物。群集。声。まじり。まじり。其。まじり。

こそ人を投殺しぬとぞよめ死難ぐよ。ゆりき。ゆりや斯くて居  
 せば身のうへにうん。と脱とて衣衣を引く。人の中を  
 捕縛る。ゆり方とてゆりふけり。さしど由種所より人殺し  
 詮義儀よりけし。頼九布由身のお死する。一ちづ西  
 國へやゆん。吾妻へ中道とんとひらる。去るあて。身ふ些乃  
 貯ゆるけし。づづのせん。當惑せ。不圖ゆつさる。此後  
 が従方のゆりの。雅さゆり出家とる。今ハ差義の悟道寺よ  
 学頭を勤め。居ける。死かひひ。是へてて路銀をさし  
 清んと。ある。夜悟道寺よ。尋ひぬ。彼僧は對面して。まづぐの  
 詳は物結りけし。従方の僧ひひ。凡人を察し。あひひ悪  
 とせ。ゆりの。何國は遠隔とも。天奈道とて。その怨魂除き  
 纏ひて終ふ。恨と報へざる。但一念発起して。その人  
 のよめ。出家とる。永く善花と吊る。至る。おのづから  
 恨を散さん。又縦令人を殺し者なりとも。一度仏門よ  
 入り。三衣を着て。身とる。公の殺のぐる。まづとぞ  
 あら。このへ。隠し。尾花の穂。あゆ怖る。身とる。僅かの  
 生涯を送る。ん。とて。由亡き。身とる。即善花を祀  
 佛子とる。悪念却て善念を生じ。仏由る。悔をぬ。へ  
 と。終る。説き。けし。頼九布由。その。通せ。あ  
 め。終る。あ。て。身ひ。つ。の。お。由。流石。令。の。情  
 ける。あ。あ。引。る。由。急。彼。僧。由。飲。び。つ。則。悟。道。寺。の。後。方  
 と。り。仏。前。よ。あ。ひ。つ。煩。悩。の。毛。髮。を。削。り。落。し。三。衣。を。あ。ひ。つ

こそ人を投殺しぬとぞよめ死難ぐよ。ゆりき。ゆりや斯くて居  
 せば身のうへにうん。と脱とて衣衣を引く。人の中を  
 捕縛る。ゆり方とてゆりふけり。さしど由種所より人殺し  
 詮義儀よりけし。頼九布由身のお死する。一ちづ西  
 國へやゆん。吾妻へ中道とんとひらる。去るあて。身ふ些乃  
 貯ゆるけし。づづのせん。當惑せ。不圖ゆつさる。此後  
 が従方のゆりの。雅さゆり出家とる。今ハ差義の悟道寺よ  
 学頭を勤め。居ける。死かひひ。是へてて路銀をさし  
 清んと。ある。夜悟道寺よ。尋ひぬ。彼僧は對面して。まづぐの  
 詳は物結りけし。従方の僧ひひ。凡人を察し。あひひ悪  
 とせ。ゆりの。何國は遠隔とも。天奈道とて。その怨魂除き  
 纏ひて終ふ。恨と報へざる。但一念発起して。その人  
 のよめ。出家とる。永く善花と吊る。至る。おのづから  
 恨を散さん。又縦令人を殺し者なりとも。一度仏門よ  
 入り。三衣を着て。身とる。公の殺のぐる。まづとぞ  
 あら。このへ。隠し。尾花の穂。あゆ怖る。身とる。僅かの  
 生涯を送る。ん。とて。由亡き。身とる。即善花を祀  
 佛子とる。悪念却て善念を生じ。仏由る。悔をぬ。へ  
 と。終る。説き。けし。頼九布由。その。通せ。あ  
 め。終る。あ。て。身ひ。つ。の。お。由。流石。令。の。情  
 ける。あ。あ。引。る。由。急。彼。僧。由。飲。び。つ。則。悟。道。寺。の。後。方  
 と。り。仏。前。よ。あ。ひ。つ。煩。悩。の。毛。髮。を。削。り。落。し。三。衣。を。あ。ひ。つ



傍  
青  
經

三子名各可

三子名各可

三子名各可

けまへ。忽ち荒らまじり。法師とありける。此僧侶人のとき。酒を  
嗜む。おろ顔色寤めて青く。形も熊の跨踞るや等し。されば  
うぐぐ。温酒を戒持せよとて。法号を青熊とあり。僧侶を責  
教るといふも。素より一文不通の骨りのるまへ。今僧と  
ても。一語一言の解せどもおぼえざ。只庫裏にあつて。薪をおろ  
茶をうけた。或も清掃の外も。都て手よ。夜せし。由のけまへ。人  
の下はあり。追ひ使つて。おのまが。馬あ。幸と。おありひり。され  
ども。宗法と。つ。酌り。り。撰り。よ。山門と。あると。免許されど。  
命よ。携り。好める。酒と。嗅と。よ。ほ。ね。べ。お。中。ま。ま。つ。あ。し。ま  
ご。ま。ご。も。今。の。馬。の。出。家。ご。と。お。り。ひ。あ。ね。め。頭。を。持。つ。月。日。を  
送り。り。り。ま。る。あ。ま。平。順。備。実。卿。の。北。の。方。姫。長。あ。り。の。ひ。後  
程。程。と。或。と。れ。童。法。師。の。密。は。結。り。る。の。日。外。未。の。ひ。女。性  
達。と。大。納。言。某。卿。の。北。の。方。姫。あ。と。と。つ。つ。が。彼。々。卒。去。し  
の。る。後。同。ド。ム。の。桂。山。宰相。の。と。や。ん。は。敵。を。焼。討。せ。ん。  
よ。と。る。と。よ。ま。ま。ひ。ら。り。汝。ホ。も。え。ら。ん。彼。姫。の。か。ら  
高。や。よ。張。出。る。の。生。ま。ゆ。る。難。支。る。と。甲。の。殊。の中。へ。扱。面  
の。室。を。入。ま。り。人。よ。奪。の。ま。と。う。ら。う。づ。れ。の。ふ。す。その。ゆ。あ。ん。  
桂。山。の。子。侍。よ。室。を。と。ん。と。せ。ら。ま。し。た。詮。と。と。る。く。遠。き。未  
の。ひ。と。方。丈。の。情。め。く。深。草。の。喜。曾。六。方。へ。落。し。ま。つ。つ。勢  
し。る。の。り。今。も。の。紙。桂。山。の。の。室。を。尋。ひ。の。り。僧。法。師。の。身  
の。と。と。の。彼。人。の。隠。家。と。の。悪。く。御。よ。告。ま。せ。ら。の。が。莫。太。の  
褒。美。子。や。秋。り。の。ん。ご。ま。ご。も。か。る。と。せ。ら。り。く。よ。れ。仕。合。よ。あ。ふ。と。も。

新編源氏物語

十一

くらちち報ひあつて。此世を幸に夏国よめひ。未末由承が、  
 深む瀬もあるまどを。おそろしく南を阿弥陀仏といひつ。果を  
 高笑ひくく止ぬおろし青熊を椽側よ居眠つて有りけるが。  
 不斗この物詰の耳よ入りけは。残アるくは淋しく。竊よありひ  
 なる。それえうらむどこの寺くあつて。既よ三とせよるまども。ま  
 人を殺せしもの。何の詮も由なし。そのまじり早竟兄舟子乃  
 こを驚せしゆえ。政先の勘弁ゆり。法師よりりしるこそ。今  
 ふらうて後悔大なるまじり。剗好物の酒をよ敷く。青法師  
 どもふしやめし。生涯この寺よあつて。芳よるとも何の事と  
 りゆらん。あつるまよ今法師をさかひつて。彼姫かめを  
 室せりたると。桂山どのとやんへりらゆえ。賞金よ引く。よれ仕  
 合の事とるまじり。さめらんと死す。又改倍し。おりの程碎た  
 へ。昔よめまじり。まじり。善き急げとつ。今より密  
 小深州へ移す。まじり。松子を窺ひ並べ。と破衣くらまじり。  
 少利あるまじり。山門をまじり出。深草の里へぞゆける。  
 夫仏戒ふらう。ひととび親門よ入る。出家人となる。墮溺し  
 僧行を持つとあつ。破戒を悲の事となる。再度帰倍する者ん。  
 現世よあひて。奇病悪疾よ苦めし。死す。三悪道へ三とび  
 墮落し。其え。死三劫を死す。湖鬼畜よ性を清ると説く。り。  
 此青熊ある。其罪よ入らう。宿善となる。既よ釋門よ入り。り。  
 仏舟子となる。とつ。僧行をよくする。とを敬せ。却て貪慾  
 よらう。迷ひ。再度悪念を引く。終る。仏陀の憎しきをまじり。



死をうくせざるへ。是もまた、死せざる因果とやいふべき。於て青  
 熊と深草の里より。やうくあしく。人とのとりまは。隠家は  
 剽りあき。悟道寺の徒弟青熊とやりのあり。精舎より。の  
 使ひよすつりて。院主のや紙一も入。世の人。嫉憚りて。その後  
 へおん形勢をもうけ。めつる。徒弟。渡りせ。入。この僧々  
 徒弟。妻さうらよ。公。あつり。りのふゆ。ひそる。おん隠家。と尋  
 させ。のふよ。よ。次。おん。おる。の。命。を。業。ゆ。ひ。姫。こ  
 のおん光景。をも。切ひ。まの。せ。よ。と。是。の。ヤ。こ。れ。ゆ。と。演。れ。が。挿。入  
 咬て。お。よ。お。や。う。う。ぞ。や。方。丈。の。宣。ひ。へ。り。そ。な。る。う。作  
 と。あ。る。が。喜。曾。六。と。こ。そ。紙。一。の。人。が。う。精。舎。へ。入。音。信。の。う  
 せん。と。ぬ。る。某。の。僧。は。自。革。の。息。書。を。り。と。せ。ま。う。せ。ゆ。らん。その

餘り。う。の。の。の。寺。号。と。名。書。り。て。ま。り。ゆ。と。も。必。ら。む。の。取  
 あひ。の。入。ま。い。と。返。と。く。作。の。し。が。此。僧。と。る。よ。その。よ。賤  
 げ。よ。只。る。ぬ。向。徒。と。受。え。ぬ。程。よ。く。の。ら。ひ。返。さ。が。や。と。青。熊。は  
 む。ひ。口。は。掛。も。ひ。く。よ。く。と。お。ん。使。と。の。う。ゆ。ひ。ぬ。こ。て。習。う  
 せ。の。よ。と。の。う。く。り。と。の。二。方。と。も。不。此。行。よ。う。少。く。勞。こ。ま。て。休。ま  
 り。と。さ。る。が。お。ん。使。ひ。の。紙。を。活。ふ。こ。を。や。ゆ。ゆ。の。由。よ。う。う。く  
 や。は。せ。め。入。と。ひ。う。ら。青。熊。と。奥。の。方。入。く。の。居。め。入。光。景  
 と。は。見。見。届。と。う。う。う。が。お。ん。の。と。ま。し。び。て。ん。又。こ。を。ま。ま。め。と。立。ぬ。り  
 お。ん。と。と。る。お。も。表。の。方。う。き。り。戸。引。明。け。つ。と。顔。を。さ。し  
 へ。う。の。の。と。え。ま。じ。丹。三。の。う。は。由。青。熊。が。倍。う。く。在。と。ぬ。ご。う  
 酒。の。友。の。し。が。互。ひ。よ。面。と。え。合。せ。ける。が。丹。三。の。の。と。も。り。り。と。



お茶屋の女

お茶屋の女  
お茶屋の女  
お茶屋の女

直さま戸をきくく出たり。青熊申丹三が爰へ入り込めり。  
 定まきく周縁あふんと推量り。かのふさまうらめしく語らば。うた  
 荷膽人多らんとあひけまば。挿し暇とくまひで。道の程半  
 町あふりゆ行し。取道の方より大青と和尚ととあふ者あり。  
 振返りこんまの丹三ありけまば。ま止りて。是ハ丹三ありや。昔よ  
 習ふぬ夕日眉映さ。面色こそ浦山けま。とひハ。丹三の青熊と  
 ころころ。さても殊務気ある悪羅漢なり。されどあけくわ  
 酒申吞るとこんえく。その色の青死と乾びざる瓢のど。慥む  
 べ。あまむび青熊あま。こまは汝のあまぶく。角力のうま  
 人を投殺し。あまぶくくをまのびんが為。悟道寺に入りて。  
 仏弟子とあり。哀れく。柳あり。飲酒戒を持ちて。既よ三年

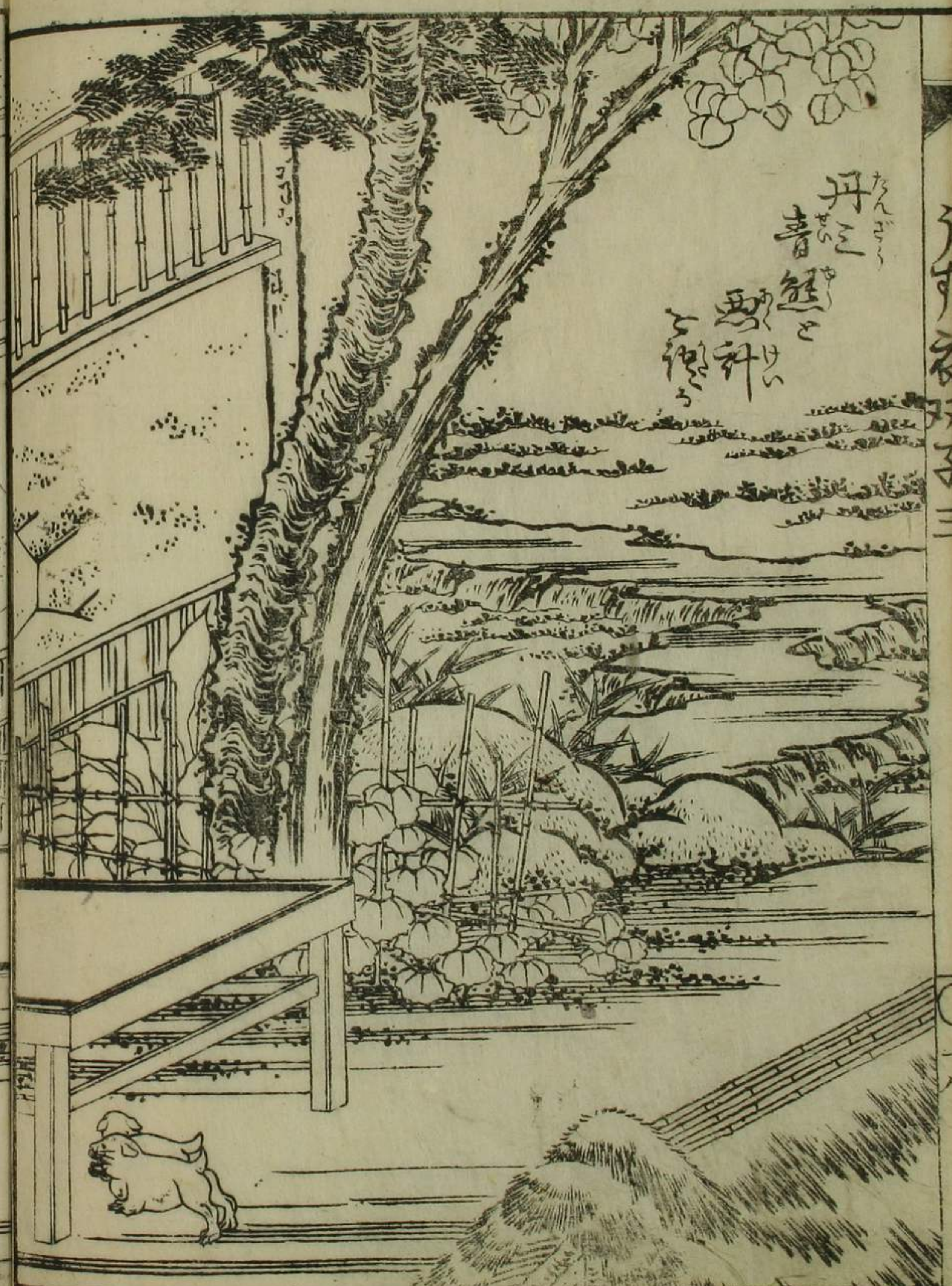
さるゆは肉枯も力落く。さるは性昔のこまはあまぶ。く  
 かののまざりし。不図この母どう死をせま。ぬるゆえ。  
 今日喜曾六が後ある家よ至りし。汝もまこつる由外五  
 て。彼家よあまぶ。丹三吞く。こまは深子細あり。和尚も何ホ  
 のまよより。女と到り。げは物持りせま。せ。青熊こまは  
 深き周縁あり。偶も胸をあつとま至る。同ト道もやあらんとま  
 よ。丹三こまも甚く紙若く。むら一線あり。あつとま由愛を途中  
 るのま。妻よま至る。僕倅この酒屋よ入りて。語らん。まは  
 由その面色の青と紙深く。と奥の亭よあがりて。互ひ  
 教盃を傾け。やあつと青熊。丹三よむらひ。汝も何なる教盃の  
 ありて。彼女もその家よ入り込。縁由を詳し。語ま。丹三ひく

盃とどくとわやく。青熊ふ進め。こま和尙のおりふ。そのふとも  
 面なけきとも。その来歴と諸らん。先刻るんら。鏡語せし  
 女を挿といひて。彼家の女児あり。まうる紙もよひて。さう口  
 鏡ども更よまう。或も和し。或も殺す。いまま一  
 度ゆも。氣ある言。語もあがく。さうさう。さうさう。さうさう。さ  
 尽せし紙。止まん。由本意。みく難。面なれ。報ひを。んま。せむ。と  
 おりくど。やう。愁。ふ。捨る。よ。まの。び。ど。あ。ど。や。和尙。こ。が。狗。苦。れ  
 と。助。く。べ。き。妙。知。あ。ら。ば。為。よ。施。し。と。う。と。さ。う。く。青。熊。と。大。あ。の。口。を  
 ひ。く。さ。て。か。く。く。と。う。ら。笑。ひ。さ。い。ふ。や。汝。も。今。お。し。新。惠。の。者  
 う。と。お。り。く。ど。その。浅。間。あ。る。と。腮。を。お。さ。し。挿。を。か。や。小。蛇。し。う。素  
 よう。汝。が。その。憎。げ。あ。る。面。を。り。て。女。を。ま。う。が。え。ん。と。あ。の。さ。と。も。さ。う  
 三。平。二。満。の。醜。婦。も。も。う。ろ。う。け。が。ん。や。こ。ま。の。ま。う。の。汝。由。黄。冷  
 と。ま。ふ。ら。う。と。よ。紙。学。ま。る。や。と。お。り。ひ。し。よ。案。の。外。あ。る。疎。ん。し。う  
 銭。言。あ。り。叔。も。汝。し。ま。ご。彼。女。を。ま。の。身。の。え。り。う。あ。り。の。と。い。ふ  
 と。を。ま。う。と。と。え。え。し。う。と。い。く。バ。丹。三。笑。て。こ。ま。家。又。初。り。ゆ。し。う  
 の。の。人。と。こ。ま。素。ハ。都。の。富。家。あ。る。商人。の。妻。子。あ。る。が。と。い。ふ。言  
 祭。と。う。ら。消。し。青。熊。と。丹。三。と。発。當。と。白。眼。と。汝。さ。や。と。の。無。く  
 る。れ。り。の。と。い。ふ。あ。り。ご。り。し。その。縁。由。あ。る。と。あ。る。バ。こ。ま。諸。り。さ。る  
 せん。彼。女。を。ま。う。や。ど。る。れ。公。卿。の。妻。子。あり。汝。が。紙。か。く。る。ハ。姑。女  
 あ。て。老。黨。の。女。児。あり。さ。う。は。よ。紙。ゆ。あ。れ。り。の。と。幕。の。本。石。を。抱。く  
 ふ。お。る。ど。う。ろ。う。紙。よ。徒。が。ん。や。その。弓。を。捨。て。弦。を。と。ると。今。忽。地  
 黄。合。よ。あ。る。と。を。え。う。る。べ。し。其。汝。の。ま。あ。ら。ば。挿。ど。れ。女。り。く。十。人。を

盃とどくとわやく。青熊ふ進め。こま和尙のおりふ。そのふとも  
 面なけきとも。その来歴と諸らん。先刻るんら。鏡語せし  
 女を挿といひて。彼家の女児あり。まうる紙もよひて。さう口  
 鏡ども更よまう。或も和し。或も殺す。いまま一  
 度ゆも。氣ある言。語もあがく。さうさう。さうさう。さうさう。さ  
 尽せし紙。止まん。由本意。みく難。面なれ。報ひを。んま。せむ。と  
 おりくど。やう。愁。ふ。捨る。よ。まの。び。ど。あ。ど。や。和尙。こ。が。狗。苦。れ  
 と。助。く。べ。き。妙。知。あ。ら。ば。為。よ。施。し。と。う。と。さ。う。く。青。熊。と。大。あ。の。口。を  
 ひ。く。さ。て。か。く。く。と。う。ら。笑。ひ。さ。い。ふ。や。汝。も。今。お。し。新。惠。の。者  
 う。と。お。り。く。ど。その。浅。間。あ。る。と。腮。を。お。さ。し。挿。を。か。や。小。蛇。し。う。素  
 よう。汝。が。その。憎。げ。あ。る。面。を。り。て。女。を。ま。う。が。え。ん。と。あ。の。さ。と。も。さ。う  
 三。平。二。満。の。醜。婦。も。も。う。ろ。う。け。が。ん。や。こ。ま。の。ま。う。の。汝。由。黄。冷  
 と。ま。ふ。ら。う。と。よ。紙。学。ま。る。や。と。お。り。ひ。し。よ。案。の。外。あ。る。疎。ん。し。う  
 銭。言。あ。り。叔。も。汝。し。ま。ご。彼。女。を。ま。の。身。の。え。り。う。あ。り。の。と。い。ふ  
 と。を。ま。う。と。と。え。え。し。う。と。い。く。バ。丹。三。笑。て。こ。ま。家。又。初。り。ゆ。し。う  
 の。の。人。と。こ。ま。素。ハ。都。の。富。家。あ。る。商人。の。妻。子。あ。る。が。と。い。ふ。言  
 祭。と。う。ら。消。し。青。熊。と。丹。三。と。発。當。と。白。眼。と。汝。さ。や。と。の。無。く  
 る。れ。り。の。と。い。ふ。あ。り。ご。り。し。その。縁。由。あ。る。と。あ。る。バ。こ。ま。諸。り。さ。る  
 せん。彼。女。を。ま。う。や。ど。る。れ。公。卿。の。妻。子。あり。汝。が。紙。か。く。る。ハ。姑。女  
 あ。て。老。黨。の。女。児。あり。さ。う。は。よ。紙。ゆ。あ。れ。り。の。と。幕。の。本。石。を。抱。く  
 ふ。お。る。ど。う。ろ。う。紙。よ。徒。が。ん。や。その。弓。を。捨。て。弦。を。と。ると。今。忽。地  
 黄。合。よ。あ。る。と。を。え。う。る。べ。し。其。汝。の。ま。あ。ら。ば。挿。ど。れ。女。り。く。十。人。を



お上  
毛  
は  
な  
り



丹  
喜  
野  
子

従んちぎと申まの候ちかるり。不便ふべんや汝な。二にの眼めの死し々々るる事ことも盲めい  
 小等せうと一いつく。其その許もとの美とが令しも取とる事ことを志しさば。是こゝへ遠とほくは除おとの  
 徳とくを忍しのぶと死し。汝なもあまらば美うらま正ただるれ。と云いべ。丹三にさん牝ひくく膝ひざをせり  
 うせそ。それまづこそ其その深あた本もと由よしを志しさるるゆゑ。形かたちの犬いぬ骨ほねをせり  
 たり。實まことは和尙わしやうのいふごころを。是こゝも偶たまは荷か贖えんまぶ。青熊あおくま飲のみ  
 で。志しさるるがその謀まが策さくを説とべし。汝なも志しさるるご。彼かの家いへは頭うらさきく張はり出で  
 たり。顔かほよ死し女むすめ兒こを。袴はかま被かき。烏帽えが子この志しさ物もの被かける下した六むつ哉や  
 死し宝たからを志しさるるご。是こゝも人ひとの志しさるる其その被かける袴はかまの志しさるるご。是こゝも  
 脱ぬぎと穿きけども。何なんれんのあらん。が又また實まことは取とるご。是こゝも姫ひめ  
 と申まは奪うばひたり。京師きやうしの桂山けいざんどのと申まるるへ持もちりくと死し。莫太むくたい  
 の黄金こがねは換かへりと申まるる。志しさるるごも汝なも是こゝも。斬きるあと申まるる死し  
 牙とご申まるる。都みやこへ至いたり公卿こうけいの館たねを尋たずね移うつるる人ひとの見み侮おごりと申まるる  
 正ただ有ありま。爰こゝは術ていぎあり。ちが挿さるる女むすめを奪うばひて難波なみへ送おくるる。  
 浅妻あさつまは賣うり。其その價あひをりつて夜衣よろひを調とへ。志しさるるごのち姫ひめが室むろを  
 取とりて。賞あづかりはぬが汝なも是こゝも限かぎの身みと申まるるご。と云いひけしは  
 丹三にさんも大おほきよは疼いたむる。是こゝも女むすめの志しさるるご。迷まよひ。斯かくは僂倭ろうわ一いつ  
 心こゝろつらららら。あつらばその高たか給たへ何なん日ひと申まるるご。志しさるるご。青熊あおくま  
 指さを屈かりと。今日けふより第三日だいさんじつの夜よ。汝なも喜よろこぶる。曾そとが声こゑ青熊あおくま  
 似にせる。挿さをよび出でせ。是こゝも備ひは隠かくま居いて。直ただま捕とへて猿さると  
 と申まるる。先ま伏見ふし申まるる。連つれりば。彼かの如ごとく申まるる。人ひと賣うりと申まるる。速すみくも  
 るる。汝なも是こゝも續つづくる。志しさるるご。申まるる。若わかきと申まるる。  
 後のちの酒さけを酌しやくむる。申まるる。姫ひめが牙との志しさるる。袋ふくろは入いれおくよと申まるる。

牙とご申まるる。都みやこへ至いたり公卿こうけいの館たねを尋たずね移うつるる人ひとの見み侮おごりと申まるる  
 正ただ有ありま。爰こゝは術ていぎあり。ちが挿さるる女むすめを奪うばひて難波なみへ送おくるる。  
 浅妻あさつまは賣うり。其その價あひをりつて夜衣よろひを調とへ。志しさるるごのち姫ひめが室むろを  
 取とりて。賞あづかりはぬが汝なも是こゝも限かぎの身みと申まるるご。と云いひけしは  
 丹三にさんも大おほきよは疼いたむる。是こゝも女むすめの志しさるるご。迷まよひ。斯かくは僂倭ろうわ一いつ  
 心こゝろつらららら。あつらばその高たか給たへ何なん日ひと申まるるご。志しさるるご。青熊あおくま  
 指さを屈かりと。今日けふより第三日だいさんじつの夜よ。汝なも喜よろこぶる。曾そとが声こゑ青熊あおくま  
 似にせる。挿さをよび出でせ。是こゝも備ひは隠かくま居いて。直ただま捕とへて猿さると  
 と申まるる。先ま伏見ふし申まるる。連つれりば。彼かの如ごとく申まるる。人ひと賣うりと申まるる。速すみくも  
 るる。汝なも是こゝも續つづくる。志しさるるご。申まるる。若わかきと申まるる。  
 後のちの酒さけを酌しやくむる。申まるる。姫ひめが牙との志しさるる。袋ふくろは入いれおくよと申まるる。

幼少<sup>ちやうせう</sup>旁<sup>はら</sup>まゝらみ。定日<sup>さだめ</sup>の子<sup>こ</sup>管<sup>くだん</sup>うらむば相遠<sup>あひあは</sup>みと互<sup>たがひ</sup>ひり  
長<sup>なが</sup>政<sup>せい</sup>のひ青熊<sup>あおくま</sup>を丹<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>は別<sup>わか</sup>れは碎<sup>くだ</sup>はきく嵯<sup>さ</sup>業<sup>ごう</sup>へこそ帰<sup>かへ</sup>りけり  
さや柿<sup>かき</sup>が身<sup>み</sup>は迫<sup>せま</sup>りて適<sup>のふ</sup>がた奇<sup>き</sup>雅<sup>みや</sup>あり。えりべし次<sup>つぎ</sup>編<sup>ひ</sup>まそた  
縁由<sup>ゆゑ</sup>を説<sup>と</sup>く。

薄<sup>うす</sup>衣<sup>ぎ</sup>巾<sup>きん</sup>紙<sup>し</sup>卷<sup>まき</sup>之<sup>の</sup>三<sup>さん</sup>終<sup>はつ</sup>

